

「イエス・キリストは生きておられる」

コリント人への手紙第一 15章 3-5節

今日は、「イエス・キリストは生きておられる」というテーマでお話をします。

聖書はコリント人への手紙第一 15章 3節から 5節です。

はじめに

4月4日にイエス様の復活、よみがえりをお祝いするイースターを迎えました。イエス様は、十字架につけられて殺されましたが、死んで三日目に生き返られたのです。それがキリストの復活です。つまり、イエス・キリストは、今も生きておられるのです。

適用：なぜ日曜日が休みなのかご存知でしょうか。それは、イエス・キリストが週の初めの日、つまり日曜日に復活なさったからなのです。そこでキリスト信者は、その日を記念して教会で礼拝するようになりました。

教会は、日曜日が休日なので礼拝しているわけではないんですね。その反対で、イエス様の弟子たちが、イエス様の復活を記念して、日曜日に礼拝したから、世の中の方が休日にしたのです。

日本で日曜日が休みになったのは、明治9年（1876年）のことです。国を開いたときに、外国人が日曜日は教会に行くので、休みにしないと不都合なことがいろいろあったので、官庁や学校を日曜日休みとしました。

ですから、日曜日休日は、キリストの復活から来ているのです。

疑問（どうして死んだ人が生き返るのか）

キリストが生き返ったということ、そんなばかな、死んだ人が生き返るはずがないと、普通は考えますよね。しかし、キリスト教の聖典である聖書は、イエス・キリストは確かに生き返ったと伝えているのです。そして、それを、

キリストの十字架とともに最も大切なこととして、伝えてきているのです。
つまり、イエス・キリストの復活がなければ、キリスト教は成り立たないのです。

証言

聖書によると、イエス様が生きていることを見た人は、500人以上いたと言われていますし、そのことを記しているコリント人への手紙が書かれた頃、その中の多くの人はまだ生きていたのです。

そのことの証人として、多くの弟子は命がけで伝道し、殉教した人も少なくありません。それほど、キリストの復活はキリスト教の中心なのです。いくら信じられないといっても、これを除いたら、キリスト教はキリト教ではかなくなってしまいます。

どのようにして

では、どのようにしてキリストは生き返ったのでしょうか。それは、神様がキリストを生き返らせたのです。神様は、天地の造り主で、全能の神ですから、お出来にならないこと、不可能なことは一つもないのです。神様なら、死人を生き返らすことも簡単なことです。

生き返った理由

では、なぜイエス様は生き返ったのでしょうか。それは、生きた救い主として私たちを助けるためです。イエス様は、たんに教えを残しただけではありません。私たちを助け、救うために生き返られたのです。イエス様は、生きておられる

からこそ、私たちの祈りを聞き、助けることがお出来になるのです。

もう一つの目的は、私たちも復活することを保証するためです。私たちは、墓で朽ちてしまうわけではありません。復活して、神様の国で永遠に生きるのです。それが復活の意味です。

キリストは、どこで生きておられるのか。

キリストは、地上のどこかで生きておられるのではありません。キリストは、復活後 40 日目に天にお帰りになり、今は天で生きておいでになります。では、天におられるキリストがどうして私たちを救い、助けることができるのでしょうか。それは、ご自身の代わりに「助け主」として「聖霊」をお遣わしになりました。聖霊は、「信じる者とともに、信じる者のうちにおられ」て、救い、助けてくださるのです。「キリストがともにおられる」というのは、キリストが聖霊によって私たちとともにおられるということです。

信じるとどうなる？

復活を信じる者には、希望があります。人生で失敗しても、苦しくてどうにもならなくても、復活があるのです。そういう希望です。それだけでなく、死んでも永遠に神のもとで生きる希望があります。

ファニー・クロスビー

ファニー・クロスビーは、生涯 8000 もの讃美歌を書き、その歌集は 100 万部以上といわれる世界で最も有名な讃美歌作者です。日本でも愛唱されているのは、「つみとがをゆるされ」「われに聞かしめよ」「救い主イエスと」「十字架のかげに」「イエスよ、この身を」など、日本の聖歌にも 24 曲載っています。

彼女は、生まれて間もなく失明しましたが、とても聡明で活発な子で、外でおにごっこをしたり、信仰の厚いおばあさんから毎日聖書を読んでもらい、聖書の多くの書を暗記していました。ミルトンなどの詩も読んでもらいそらんじていました。ニューヨークの盲学校に入りましたが、成績優秀で、国会議員の前で最初に演説した盲人として知られました。学生として 8 年、教師として 15 年そこに居ました。30 歳の時に、リバイバル集会で真の信仰に目覚めました。讃美歌作家としてだけでなく、説教者、救済事業家としても有名で、アメリカで最も尊敬されている一人です。

盲学校で知り合ったアルスタインと結婚し、子が生まれましたが、数か

月で死んでしまいました。その時に書いたのが「イエスのみうでに」という讃美歌でした。

イエスのみうでに そのみむねに
しずかにいこう われはやすし
あまつつかいの うたのこえも
こころにちかく きこゆるなり
イエスのみうでに そのみむねに
しずかにいこう われはやすし

イエスはとこよの いわにませば
いけるかぎりは たよらまほし
さかえかがやく くににさむる
とこよのあさを まちわびつつ

イエス・キリストは、いま生きていて私たちを助けて下さいます。どんな困難・苦難の中でも、イエス様は私たちを助けてくださるのです。それだけでなく、私たちに死を越えて、永遠の希望を与えて下さいます。イエス様が生きておられるので、私たちも滅びるのではなく、生きるのです。

まとめ

皆様もイエス・キリストが今も生きておいでになることを信じて、どんな時にも希望を持って生きていって行きましょう。